

報告者：鈴木（就労支援室）

令和8年度 第1回台東区障害者地域自立支援協議会（就労部会）報告

1 開催日

毎月第3水曜日 17:00～18:30

1/21、2/18、3/18、4/15 計4回（リモート開催）

2 検討した内容

（1）令和7年度検討テーマについて

10月より、就労継続支援A型・B型事業所、移行支援事業所、一般就労関係の事業所を対象に、2期に分けて「リーダー・サブリーダー会」を開催していたが、担当者に負荷がかかり、テーマとして共通の課題も抽出しづらいことから、今年度はリーダーとサブリーダーで打合せを行わず、全体の課題抽出ができるテーマで進めることとした。

（2）令和7年度講演会について

松が谷福祉会館にて令和8年2月20日（金）に株式会社JAL サンライトの人事担当者をお招きし、障害者雇用の取り組みについて講演を行っていただいた。障害者雇用について、これまでの経緯や業務内容、支援体制を説明していただき、部会員からは企業の取り組みを知ることができ、良い機会となったと意見があった。

（3）令和8年度検討テーマについて

事例検討を行うだけでなく、「防災」という共通のテーマを設けてお互いの情報共有から話し合いを進め、課題解決策を一緒に考えていくこととした。

就労選択支援事業については、事業を開始した複数の事業所から進捗状況や課題などを挙げていただき、各部会員の視点から意見交換することで、共通の認識を持ちながら、課題を抽出したり、新たなアセスメントの取組みのヒントを得られるようにしていくこととした。

また、昨年度から継続することとして事例検討を2か月に一度の頻度で行い、地域課題の抽出を行うとともに、就労継続支援B型事業所の見学会を検討し他施設の取り組みを知る機会を設けるように進めていくこととした。

(4) 勉強会

◆1月 事例検討 (たいとう第四福祉作業所)

事業所の課題抽出

<課 題>

- ・コストをかけて求人を出しても採用に至らず、面接時のマナー欠如や採用後の無断欠勤など、応募者の質とミスマッチが大きな壁となっている。
- ・小規模事業所の限界は、資金や労力の不足から独自の「特色」を打ち出せず、既存職員が複数業務を兼任しながら日々の運営を維持することで精一杯の状況にある。

<部会員からの意見>

- ・見学・実習を重視し、職場理解を深めたうえで採用する。
- ・非常勤から常勤への登用を積極的に行っている。
- ・学生へのアプローチ（精神保健福祉士養成校など）を行う事業所もある。
- ・ハローワークでは中小企業の採用支援も課題としており、求人掲載の相談や面接会の活用も考えている。

◆2月 事例検討 (就労支援室)

40代 男性 統合失調症

<課 題>

- ・生活費が少ない状況から保護課へ何度も相談したが収入が多いため対象外。
- ・就労先でも認知機能面の低下から業務のミスがあり優先順位がつけられない。
- ・上司がかなり介入し就労を継続しているが依存的なことから他部署に異動。
- ・運転業務もあり事故の危険も高まったことから代替業務となると意欲が低下し欠勤も増えていた。
- ・病気も見つかったが精密検査も受けず、気分の波によるキャンセル等が重なり、訪問看護や計画相談の契約は終了。
- ・認知機能の低下により、優先順位付けや金銭管理に課題がある。

<部会員からの意見>

- ・生活保護を受けられるように現在の住まいから転居できないのであればしっかり債務整理を行って本人の生活面を安定させることが重要ではないか。
- ・訪問看護が必要な状態だと思うので今の就労を続けるよりは、優先順位を整理したうえで医療や生活を安定させ、再度就労するほうが良い。
- ・仕事を続けるのであれば、優先順位も整理しつつ就労する水準を明示するほうが良い。

(5) 今後のスケジュール

- ・防災をテーマに各事業所のBCPを共有し意見交換
- ・2か月に一度の事例検討から課題を抽出
- ・就労選択支援の進捗状況を実施事業所より共有
- ・事業所の見学会を検討